

農業の新しい技術

No. 741(令和4年(2022年)6月)
分類コード 01-14
熊本県農林水産部

黒毛和種種雄牛「茂三」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室
担当者：福島敬太

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

1. 肉量と肉質に優れた黒毛和種種雄牛「茂三」を選抜した。

○血統

父 茂洋 (黒原 4257)	祖父 茂勝(黒原 2012)	— 茂重波(黒高 634)
	祖母 ござさ(黒原 741541)	— 糸晴波(黒育 130)
母 なお3 (黒原 1332386)	祖父 平茂勝(黒原 2441)	— 第20平茂(黒原 287)
	祖母 ひろみの1(黒原 1984222)	— 安平(黒原 2208)

○登録番号：黒 15329

○生年月日：平成28年2月4日

○生産地：合志市(熊本県農業研究センター畜産研究所)

2. 現場後代検定成績¹⁾および育種価

○枝肉重量は去勢532.2kg、雌485.5kgと非常に優れ、いずれも歴代最高の成績となった。育種価でも111.16kg(評価種雄牛2,798頭中28位)と極めて高い評価となった。

○ロース芯面積とばらの厚さは、全体平均でそれぞれ70.2cm²、8.4cmと優れ、育種価は24.94cm²(評価種雄牛2,798頭中27位)、1.08cm(同242位)といずれも高い評価となった。

○BMSNo.は去勢8.6、雌8.0と優れており、育種価でも2.48(評価種雄牛2,798頭中72位)と高い評価となった。

○SBV²⁾は枝肉重量2.63、BMSNo.2.16、ロース芯面積2.92、ばらの厚さ1.47、皮下脂肪の厚さ-2.72となり、皮下脂肪を除く形質で改良効果が大きいと推定される。

1) 検定調査牛の不足のため全国和牛登録協会による検定成績の評価は未実施。

2) SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるよう加工したものの。

3. 特徴

本牛は、BMSNo.の育種価が県内1位であった「なお3」に質量兼備の名牛「茂洋」を交配し、胚移植により作出された。検定成績では枝肉重量、ロース芯面積、ばらの厚さ、脂肪交雑が歴代トップクラスであり、全国的にも希少な茂金系の種雄牛として活躍が期待される。皮下脂肪がやや厚い傾向があるため、交配には留意する必要がある。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



茂三 (しげぞう)

格付け:A-5 枝肉:563.6kg
BMS:12 ロース:82cm²
ばら8.8cm 母の父:安福久

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	BMS No.	ロース 芯面積 (cm ²)	ばらの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	歩留基準値
去勢	9	532.2	8.67	71.7	8.6	3.2	74.9
雌	5	485.5	7.00	67.6	8.0	3.3	74.5
全体	14	515.5	8.07	70.2	8.4	3.2	74.8

表2 育種価(BV) (R4.2月評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量 (kg)	28	111.16	(0.86)
BMS No.	72	2.48	(0.86)
ロース芯面積 (cm ²)	27	24.94	(0.85)
ばらの厚さ (cm)	242	1.08	(0.83)
皮下脂肪の厚さ (cm)	2,777	0.67	(0.85)
歩留基準値	579	2.07	(0.86)

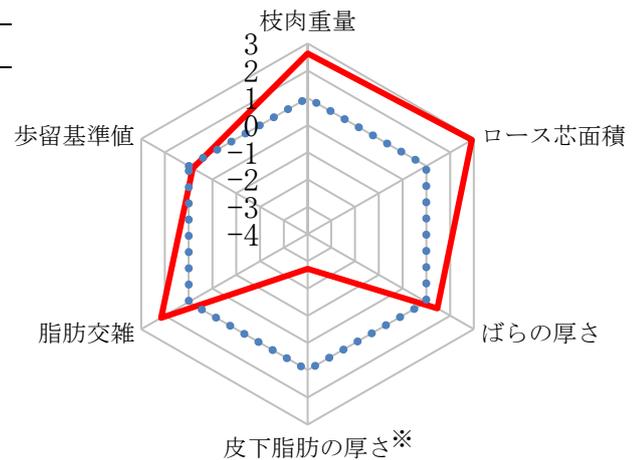


図1 SBV (標準化育種価)

※ 皮下脂肪は逆符号

※ 後代頭数11頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛2,798頭中の順位